

私は、3週間、米国で日米参加者との共同生活を通して、国際交流を超えた、人間交流をすることができたと思っています。参加したどのプログラムも大変有意義で充実したものでしたが、中でも、米国のプリンストン大学でルームメイトのマルハーとの共同生活が印象に残っています。アメリカ生まれのインド人で国も言語も文化も習慣も異なり、私とは全く違うバックグラウンドを持っているマルハーと、約2週間、寝食と行動を共にしました。始めのうちは、お互いの誕生日や好きな色、といったようなたわいもない会話しか出来ませんでした。そしてなにしろ、24時間、本当に常に行動を共にしなければならなかったこともあって、不自由なく喋れる日本へ帰りたと思った事もありました。ですが、各々の境遇や誰にも話せない胸中の想いを打ち明け、涙を流しあったある晩の夜や、四六時中行動を共にする中で見えてきた彼の素晴らしい人間性等を通して、いつの間にかマルハーが隣に居ない生活は考えられないものとなっていました。わたしの中に隠れていた、若しくは知らずのうちにわたしが隠していたのか、私でさえ無知なわたしの存在をマルハーに見つけてもらい、認めてもらいました。マルハーが語ってくれた一言一言が今の指針となっているし、今でも、連絡をとりあっています。

また、参加者全員が本当に素晴らしい人々ばかりで、いろんな人と関わり、彼らの素の人間性に触れる中で、学ぶことが多くありました。本当に、本当に人生の中でこれほど濃い3週間は経験したことがなかったし、きっとこの先もないと思います。

これまで自分に自信を持つことができなかつた私にとっても、人をこんなに好きになることってなかつたし、こんなに自分自身も、みんなから愛されてると思えることもなかつたので、プログラムを通して、本当に全員が家族になっていたこの関係が大好きでした。

そして、プログラム参加前に抱いていた不安や、早く終わって欲しいという思いが、別れた後の帰り道、溢れ出てきた止まらない涙に変わっていたことに気づいた時、本当に幸せでした。

このプログラムを終えた今、世界が変わった自分に出逢えました。(3年 薛 孝豊)